

附属養護学校における介護等体験の実施報告

瀧 ひろ子*・松村 忠彦*
谷口 紘八*・田中和幸*

The Implementation of "Experience of Personal Care" at the School for Mentally Handicapped Children attached to Kumamoto University

Hiroko TAKI, Tadahiko MATSUMURA, Kouhachi TANIGUCHI and kazuyuki TANAKA

はじめに

第140回国会において「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」通称、介護等体験特例法が成立、平成9年6月18日に公布され、平成10年4月1日から施行された。趣旨として「この法律は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の特例等を定めるものとする。」と示している。さらに留意事項の中で介護等体験の内容として「介護、介助のほか、障害者等の話し相手、散歩の付添いなどの交流等の体験、あるいは掃除や洗濯といった、障害者等と直接接するわけではないが、受入施設の職員に必要とされる業務の補助など介護等の体験を行う者の知識・技能の程度、受入施設の種類、業務の内容、業務の状況等に応じ幅広い体験が想定されること。」としている。介護等体験の期間は7日間と定められ、特殊教育諸学校では2日程度を目途とすることが望ましいとされた。

これを受け、附属養護学校でも平成10年度に熊本大学教育学部と介護等体験の受入に向けて具体的な協議を行い、平成11年度より教育学部2年生を対象に介護等体験を実施することになった。

本稿は、附属養護学校における平成10年～13年ま

での介護等体験の実施経過と参加学生のレポートによる結果を報告したものである。

介護等体験の実施状況

〈平成10年度〉

平成10年度は、次年度より熊本大学教育学部に介護等体験が導入されるため、今後の実施計画を立案するにあたり、熊本県教育委員会から要請のあった尚網短期大学の介護等体験を試行した。それにより熊本大学の学生にとっても本校にとっても、より望ましい介護等体験の立案及び実施のための資料を得ることを目的とした。

主な実施計画は表1に示すとおりである。

この年度は試行期間であり、日程も8:30～17:00と本校職員の通常の勤務時間帯に行った。事前指導は行わなかったため、当日のオリエンテーションで介護等体験及び本校の概要について説明を行った。体験内容は、児童生徒との活動を中心において設定した。

その結果、終了後の参加学生の記録等からも有意義な体験であったことが窺われた。また本校にとっても次年度からの教育学部学生の受入の参考になるものであった。

〈平成11～13年度〉

平成11年度より、熊本大学教育学部2年生の介護等体験が本校にて開始された。実施の手順から終了後までの主な介護等体験の経過に添って説明を行うことにする。

1 実施の手順

介護等体験は、熊本県教育委員会、教育学部介護等体験小委員会と連携を図り、次の手順で実施している。主な流れを図1に示している。

* 附属養護学校

表1 平成10年度介護等体験計画

| | | |
|---|----------|---|
| 1 | 参加者 | 尚綱短期大学1年生 6名 |
| 2 | 期 日 | 平成10年11月5、6日(2日間) |
| 3 | 日 程 | 8:30～9:00 受付、押印、オリエンテーション(本校の概要) 9:00～9:15 学部毎オリエンテーション(各学部の教育) 9:15～12:00 各学部で授業参観・参加、作業等 12:00～13:00 配膳介護、給食介護等 13:00～16:30 各学部で授業参観・参加、作業等 16:30～17:00 記録作成 |
| 4 | 主な介護体験内容 | ○小中学部配当：着替え、排泄、手洗い、掃除、給食等介護、自由遊び、 学習準備及び学習中の支援、環境整備作業 ○高等部：生活単元学習「すずかけ祭り」の準備及び作品製作補助、 環境整備作業 |

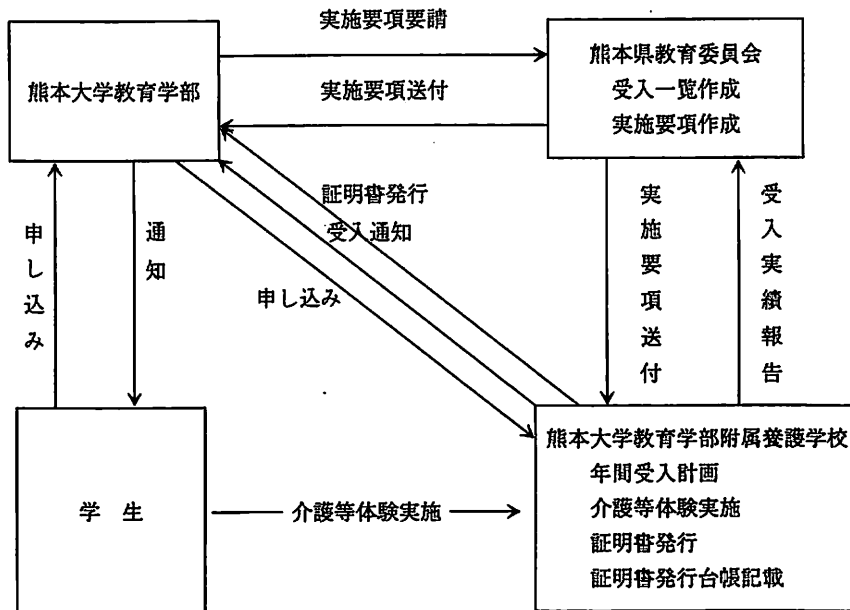


図1 介護等体験の実施手順

- ①熊本県教育委員会から附属養護学校と熊本大学に実施要項送付(12月下旬)
- ②教育学部1年次オリエンテーションにて、参加学生に附属養護学校より介護等体験の講義(3月初旬)(平成12度より開始)
- ③次年度年間受入可能日を附属養護学校より熊本大学教育学部介護等体験小委員会へ提示(3月中旬)
- ④教育学部介護等体験小委員会で各学科毎の学生の割り振り(4月初旬)
- ⑤教育学部教育実習委員会において、附属養護学校より受入通知及び介護等体験実施計画説明(5月中旬)
- ⑥介護等体験実施(5月中旬より2月)
- ⑦熊本県教育委員会・熊本大学教育学部へ受入実績

報告（3月）

⑧附属養護学校より証明書発行（教育学部で卒業時まで保管）

2 事前指導

介護等体験に際して、学生の不安や疑問を取り除くことを目的に、平成12年度より教育学部1年次教育実習オリエンテーションにおいて、附属養護学校から介護等体験についての講義（50分）を行っている。講義の主な項目は表2の通りである。

また、介護等体験の開始日2週間前に各学科に日程・準備物・留意事項等を記入して配布している。主な準備物と連絡事項は表3に示している。

表2 介護等体験事前指導の主な項目

- | | |
|---|--|
| 1 | 介護等体験を行う意義 |
| 2 | 介護等体験の法的位置づけ (障害者基本法・介護等体験特例法) |
| 3 | 教育実習との違い |
| 4 | 介護等体験の前に学習すべきこと (児童生徒から学ぶ、児童生徒を尊重する、社会人としてのルールなど) |
| 5 | 知的障害のある児童生徒に接するときのポイント |
| 6 | 証明書、評価 |
| 7 | 附属養護学校の教育概要 |
| 8 | 介護等体験Q & A |

表3 介護等体験での準備物と連絡事項

- | | |
|-----------------------------------|---|
| <準備物> | |
| 印鑑、筆記用具、運動服、上靴、運動靴、帽子、タオル、弁当、夏は水着 | |
| <連絡事項> | |
| ○ | きちんとした服装で来校してください。 |
| ○ | 校門で警備の方に学生証を提示してください。 |
| ○ | 遅刻・無断欠席をしないようにして下さい。 |
| ○ | 出勤簿には、必ず印鑑を押して下さい。押印がない場合は、証明書を出せないことがあります。 |
| ○ | 身体を動かす活動が多いので、必ず着替え（夏は水着も）を忘れないようにして下さい。 |

3 参加の原則

スムーズに介護等体験が運営できるように、参加の原則として附属養護学校より教育学部に次の点を申し入れている。

- 学生は学科毎に指定された期日に、教育実習担当教官引率の下に参加する。遅刻・欠席等の場合は、担当学科教官が対応する。
- 学生の遅刻、欠席による補習は原則として行わないが、やむを得ない理由の場合は、学科の教育実習担当教官を通して、校長宛に理由書を提出し、校長が対応を決定する。
- 配当学級は附属養護学校で決定する。
- 出勤簿に印鑑漏れなどがある場合は、後日、本校に出向き、学生が捺印をする。捺印が完了後、証明書を発行する。
- 介護等体験の際、児童生徒の教育活動に支障がある言動や行動がある場合は、参加を中断することもある。

4 介護等体験の日程

介護等体験の日程は事前指導（オリエンテーション）での講義を0.5日とカウントし、附属養護学校においては、実質1日と半日の2日間の実施とした。具体的な日程は次の通りである。

- 1年次オリエンテーション（0.5日）（場所：熊本大学教育学部）
13:00～13:50 介護等体験についての講義
- 1日実施の場合（場所：熊本大学教育学部附属養護学校）
8:30 受付、捺印
8:40～9:00 オリエンテーション（副校長挨拶、目的・日程説明、名札書き、配当学部での説明）
9:00～9:15 着替え・移動
9:20～12:00 各学部で授業参観・参加、作業等
12:00～13:00 各学部で昼食
13:00～14:30 各学部で授業参観・参加
14:30～15:00 名札返却、レポート作成、解散
- 半日実施（午前中）の場合（場所：熊本大学教育学部附属養護学校）
8:30 受付、捺印
8:40～9:00 オリエンテーション（副校長挨拶、目的・日程説明、名札書き、配当学部での説明）

附属養護学校における介護等体験の実施報告

| | | |
|-------------|-------------------|--|
| 9:00～9:15 | 着替え・移動 | ○半日実施(午後)の場合 |
| 9:20～11:30 | 各学部にて授業参観・参加, 作業等 | 12:40 受付, 捺印, 12:50～13:10 オリエンテーション(副校長挨拶, 目的・日程説明, 名札書き, 配当学部での説明) |
| 11:30～12:00 | 反省会, 名札返却, 解散 | |

表4 平成11年度～13年度受入人数

| 学科名 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 体育 | 技術 | 家庭 | 英語 | 教育 | 心理 | 養教 | 地共 | ｽ*福 | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 平成11年 | 29 | 41 | 29 | 21 | 8 | 11 | 12 | 12 | 16 | 31 | 19 | 24 | 41 | 0 | 0 | 294 |
| 平成12年 | 23 | 41 | 31 | 26 | 8 | 11 | 11 | 13 | 14 | 30 | 24 | 24 | 40 | 0 | 0 | 296 |
| 平成13年 | 20 | 29 | 21 | 16 | 9 | 8 | 15 | 11 | 13 | 18 | 22 | 17 | 1 | 16 | 11 | 227 |

*地共: 地域共生社会課程、*福: 生涯スポーツ福祉課程、養教: 養護教諭養成課程の略

- 平成11・12年度生涯スポーツ福祉課程は本校で授業を行っているため免除
- 養護学校教員養成課程、特別教科(看護)教員養成課程は本校で教育実習があるため免除
- 平成13年度養護教諭養成課程は、平成15年度より本校で教育実習開始のため免除

表5 平成11年度介護等体験の主な内容

| 期 日 | 介護等体験の主な内容 | 人数 | 学科名 |
|------------------------|---|-----|---|
| 9月2日(木) | 校庭整備作業及び授業参観 | 75名 | 教育・心理・技術 養護教諭 |
| 9月3日(金) | 校庭整備作業及び授業参観 | 81名 | 保体・理科・家庭 社会・音楽 |
| 10月16日(土) | 四附属交流会当日 小中学部: 児童生徒介護支援 高等部: バザー参加 | 19名 | 教育 |
| 10月25日(月) 10月30日(土) | ハートフル大会集団演技校内練習会、 ハートフル大会当日の日程・役割説明等 | 55名 | 国語・数学・理科 英語・音楽・体育 美術・心理・技術 家庭・養護教諭 |
| 10月31日(日) | ハートフル大会総合リハーサル集団演技参加 | 55名 | 同上 |
| 11月6日(土) | ハートフル大会集団演技参加 | 55名 | 同上 |
| 11月21日(日) | すずかけ祭りの運営支援活動 | 28名 | 心理・音楽 |
| 12月22日(水) | 高等部学部・学級懇談会中の生徒の介護支援活動 | 9名 | 技術 |
| 1月13日(木) | 校庭整備作業及び授業参加 | 85名 | 国語・数学・英語 美術・理科 |
| 1月26日(水) | 県下養護学校合同マラソン大会運営補助 (運動公園) | 58名 | 保体・理科・美術 養護教諭 |
| 2月21日(月) | 通常授業参加等* | 15名 | 家庭 |
| 2月29日(火) | 通常授業参加等 | 24名 | 数学 |
| 3月6日(月) | 通常授業参加等 | 41名 | 社会 |
| 3月8日(水) | 通常授業参加等 | 21名 | 英語 |
| 3月13日(月) | 卒業式予行参加等 | 24名 | 国語 |

*通常授業

- 小学部: 身辺処理、掃除、給食、生活単元学習、自由遊び等での支援
- 中高等部: 身辺処理、掃除、生活単元学習、作業学習等での支援

- 13:10～13:25 着替え・移動
- 13:30～14:50 各学部にて授業参観・参加
- 15:00～16:00 除草作業等
- 16:00～16:30 反省会，名札返却，解散

学校行事参加の場合は日程が変更になることがある。レポートの作成は，1日参加の時のみとする。

5 受入人数

平成11年度～13年度までの教育学部学生の各学科毎の受入人数については，表4に示す通りである。

6 介護等体験の主な内容

介護等体験の実施時期は，平成11年度は初年度のため9月から，平成12年度は7月から，平成13年度は5月から開始された。1年間の介護等体験の主な内容として平成11年度を表5に記載することにする。

7 実施後の報告

介護等体験の実施後，年度末に熊本県教育委員会と熊本大学教育学部に年間の受入人数や介護等体験の内容等の実施状況を報告している。併せて本校より表6のような書式で証明書の発行を行っている。証明書は熊本大学教育学部で卒業時まで保管されるようになっている。

表6 介護等体験証明書

| <h2 style="margin: 0;">証 明 書</h2> | | | |
|---|---|----------------------|-----------|
| 本籍地 | | | |
| 氏 名 | | | |
| 年 月 日生 | | | |
| <p>上記の者は、下記のとおり本施設において、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律第2条に規定する介護等の体験を行ったことを証明する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> | | | |
| 期 間 | 学校名及び住所 | 体験の概要 | 学校の長の名及び印 |
| 年 月 日～ 年 月 日 (日間) | 熊本大学教育学部 附属養護学校 熊本市黒髪5丁目 17番1号 | 運動場等整備作業 (例) | 学校長名 印 |
| 年 月 日～ 年 月 日 (日間) | 熊本大学教育学部 附属養護学校 熊本市黒髪5丁目 17番1号 | 知的障害者の 介護等 (例) | 学校長名 印 |
| <p>備考1 「期間」の欄には、複数の期間にわたる場合には期間ごとに記入すること。</p> <p>2 「体験の概要」の欄には、「知的障害者の介護等」等の区分を記入すること。</p> <p>3 介護等体験証明書の再発行は、行わない。</p> | | | |

介護等体験の結果

1 アンケート結果

2日間の介護等体験を実施後、参加した学生に対し、記述式の簡単な調査を行っている。附属養護学校で体験を行った平成11年度から13年度の教育学部学生の中から資料が残されている308名について、集計した結果を表7に紹介する。

(1) 介護等体験に望む際の気持ちについて

介護等体験に参加する前は、半数以上の学生が、養護学校のことがよくわからない、児童生徒とうまく接することができるのか不安であると記入していた。また全体の4分の1の学生は、子どもたちと接するのが楽しみであるとか意欲的な気持ちを表現していた。一方、介護等体験の必要性、内容に除草作業等が入っていることに疑問を持っている学生もいた。大学からの介護等体験の実施希望日ができるだけ授業に支障のない日を選択してあるので、なぜ休みの日に参加しなければならないのかとの気持ちから、面倒だ、きつい等の意見も見られた。この結果は事前指導を特に行わなかった介護等体験初年度の平成11年度参加学生のレポートが含まれていることも、いくらか影響しているようである。この課題のもとに、平成12年度より、1年次教育実習オリエンテーションで介護等体験の講義が行われるようになった。

(2) これまでの障害のある児童生徒とのかかわりについて

今回の介護等体験以外に障害のある児童生徒との

関わりについては「ある」と答えた学生が67.9%と多かったが、その主な内容としては、

- 2年次実習で特殊教育諸学校に行き接した。
- 小学校や中学校で学級内や特殊学級等に友人がいて関わりを持っていた。
- 家の近所に障害児がいて一緒に遊んでいた。
- 家庭や親戚に障害のある人がいる。
- 大学のサークル活動（自閉症・ダウン症研究会等）で接している。等があげられた。

(3) 今後のボランティアについて

介護等体験に参加する前は、不安や緊張を抱いていた学生も、体験後はほとんどが、養護学校に対する抵抗がなくなった、普通学級に通う子どもたちと変わらない、子どもたちの純粋さと一生懸命さに心を打たれた等と記述している。今後本校にボランティアに来てほしいと電話番号を記入していった学生は、38.6%だった。

2 学生の感想

2日間の介護等体験を行った後、「附属養護学校へ来校して、児童生徒との活動や教師の関わりなどで感じたことを記入して下さい。」との質問を行った。それに対する学生の感想の中から各学科毎にいくつか紹介することにする。

○平成11年度・家庭科・小学部担当

どの生徒も各々自分のペースで一生懸命頑張っている様子がひしひしと伝わってきた。水泳を参観して、それぞれ生徒により、興味を持つものが異なっ

表7 介護等体験実施後のアンケート結果

| | |
|---------------------------------------|----------------|
| Q. 介護等体験で附属養護学校へ来校する前の率直な気持ちを聞かせて下さい。 | |
| A. ○よくわからないので、緊張している。不安である。 | 54.6% (168名) |
| ○楽しみだ、頑張りたい。 | 26.6% (82名) |
| ○なぜ除草作業をしなければならないのか。 | 8.1% (25名) |
| ○仕方がない、面倒だ、きつい。 | 6.8% (21名) |
| ○なぜ介護等体験が必要なのかわからない。 | 2.3% (7名) |
| ○特に何も思わない | 1.6% (5名) |
| Q. 今まで障害のある人と関わりを持ったことがありますか。 | |
| A. ある 67.7% (209名) | ない 32.1% (99名) |
| Q. 介護等体験の終了後、本校にボランティアに来てほしいと思いますか。 | |
| A. 来てほしい 38.6% (119名) | |

平成11～13年度参加者のうち308名のレポート対象

ていて、それにずっと熱中している様子が印象的だった。また先生方がいろんな子どもに目を配り、懸命に指導をしている姿に大変感激した。

○平成11年度・養護教諭・中学部配当

最初は、どう接すればいいのか不安で話せなかったけれど、作業をするにつれて会話ができた。想像していた以上に健常児と変わらなくて、しっかりしていたのでびっくりした。一緒に汗を流しながら、草取りを終えて満足感を覚えたし、障害を持った人に対する考え方が変わったような気がする。本当にこの体験をしてよかったと思う。

○平成11年度・美術科・高等部配当

高等部での班別作業を見学しました。私だったらすぐに飽きて放ってしまいそうな単調な作業を、黙々と時間いっぱい仕事をしている生徒たちの姿を見て、とても感動しました。怠け者の自分に喝を入れられたような気がしました。今日は参加できてよかったです。

○平成11年度・国語科・高等部配当

養護学校の児童生徒は、本当に普通の小中学校より人生において、貴重な経験をしているなと思いました。陶芸や木工などであんなすばらしい作品が作れるのは、なかなかできるものではありません。児童生徒も意欲満々で頑張っていて、見ているだけで気持ちよかったです。説明もはっきり、はっきりしてくれて、私の中学部時代より大いにしっかりしていると感じました。

○平成11年度・保健体育科・中学部配当

除草作業をする姿勢がまじめで、たまにポーとするとときもありましたが、自分のやれることは全力で取り組んでいることに、少し驚きました。自分自身なかなか話しかけるのが難しく、勇気がいりました。次はもう少し話しかけようと思います。でも養護学校の子どもたちはいつも一生懸命で心が洗われるようでした。養護学校の先生方は、大変だろうと強く感じました。その分、毎日生徒たちからエネルギーをもらっているのだろうと思いました。

○平成11年度・英語科・小学部配当

様々なタイプの子もたちがいて、楽しかった。特に子どもたちと遊んだときは、とても仲良くなることができ、本当に伸び伸びしているなと感じた。先生たちが一生懸命になって、一人一人の子どもたちと接していらっしゃるのを見て、自分が教師になった時も、このようにすべきだと思いました。

○平成11年度・数学科・小学部配当

自分の感情を素直に表現してくれたために、こちら側としても児童生徒たちに対して、接しやすかつ

たです。知的障害というハンディを背負っている暗さみたいなものを以前は感じたこともありましたが、この学校の児童生徒にはそのような様子が見られず、自分が偏見を持ち、人と接していたことを恥じ、反省しています。ここに来て教員になろうという気持ちが大きくなりました。

○平成11年度・社会科・中学部配当

生徒たちの人なつっこさに驚きました。また生徒たちの笑顔を見て障害者に対して「かわいそう」とか「つらい」などの悪いイメージしか持っていなかった自分が、とても恥ずかしく思いました。

○平成11年度・理科・中学部配当

子どもたちと触れ合うまでは、気が重かったのですが、子どもたちが私が思っていた以上に明るく、すごく親しみやすかったので、びっくりしました。こういうことはやはり実際やってみないと分からないと思いました。授業中もみんな生き生きとしていました。こんな体験がなかったら、まだまだ偏見を持っていたかもしれないのでよかったです。

○平成11年度・教育学科・中学部配当

最初は、とにかくいろんなことを話したいと思っていたうちに緊張や不安でいっぱいになってしまったけれど、なにげない会話で仲良くなれた。生徒たちが歌ったり、踊ったり、パソコンと向き合ったり、そういう姿を見ていて思ったのは、彼らは心の中に感じていることを、体全部で表現しているということである。友だちと協力することも大切にしている、上級生の子どもが下級生の面倒を常に見ていることに感心した。今日体験したことは、忘れることができないと思う。

○平成11年度・技術科・高等部配当

初めは何を話したらいいのかさっぱり分からなくて、どうしようかと思ったけれど、話してみたら大丈夫だったので、よかった。縫工班の部屋にとってもきれいな織物がたくさんあって、色も自分で考えて織ったと聞いてすごいと思った。ぜひ自分でもやってみたいと思った。

○平成11年度・音楽科・高等部配当

みんな心がすごく清らかでまじめで、一生懸命除草作業に取り組んでいる姿を見ると、ここへくる前に除草作業をいやがっていた自分が恥ずかしく思えてきました。作業中にある男の子とたくさんお話をすることができました。とてもしっかりしていて感心しました。

○平成11年度・心理科・小学部配当

プールで「一緒に遊ぼう」と言われ、楽しく遊ん

でいたのですが、いつも精一杯の力で挑んでくる彼女に怪我がないように配慮しながら遊ぶのはなかなか難しいなと思いました。どこまでやってよいのか対処の方法があまり分からなくて困りました。でも一生懸命に泳ぐ姿にはとても感動しました。楽しかったです。

○平成12年度・社会科・小学部担当

児童生徒が素直であることを一番感じました。これまで教育実習で幼稚園や小学校に行ったけれど、知的障害といわれている児童生徒の根本的な差はないのではないかと思います。ことばは聞き取りにくくても、根本的なところは他の児童生徒と変わらないと感じました。

○平成13年度・美術科・中学部担当

まず第1印象は、子どもたちがすごく素直でいい子たちだったということです。緊張している私にもよく接してくれました。先生方もやさしくて明るくて楽しかったです。

また子どもたちを責めることの大事さ、悪いことをしたときに、どのように子どもたちに悪いと教えるのかということ自分の目の前で見て、とても勉強になりました。授業では絵を描いたのですが、それぞれみんな上手でびっくりしました。私は今まで知的障害者にどう接すればよいか分からなかったのですが、介護等体験をして少し分かったような気がします。今日は養護学校に来て、とてもよかったです。

まとめと今後の課題

熊本大学教育学部の介護等体験が附属養護学校で開始されて3年目になるが、学生のレポート等から考察してみると、2日間を通して障害のある児童生徒とその教育に関する理解や認識の拡がりが見られている。この点では介護等体験の成果として評価できるものであると考えられる。

これまで、本校でも試行錯誤をしながら運営を行ってきた。教育学部介護等体験小委員会との協議で改善されてきている点も多くあるが、以下のようないくつかの課題も残されている。

まず、介護等体験の必要性、内容、養護学校の教育等について、学生の理解が不十分であり、参加する前はかなり不安や疑問を抱いているということである。この点については、平成12年度より教育実習の1年次オリエンテーションで介護等体験に関する講義を本校から行うようになり、解消された面も多くある。しかし介護等体験で本校に来校するまでに

期間があり、まだ不安を抱いたままの学生もいる。そのため本校での参加当日のオリエンテーションでは、時間の制約もあるが、より具体的な体験の内容やその中に児童生徒と関わるだけでなく、環境整備等も含まれていることを説明している。またできるだけ児童生徒と関わりが持てる時間を確保するように配慮している。今後、理解促進のため介護等体験の手引きの作成も検討している。

次に学生の無断欠席・遅刻が多いことである。これについても、事前のオリエンテーションでの講義や介護等体験の案内の配布により、本人に自覚を持たせるとともに、当日に各学科の教育実習担当教官が引率するか、受付に来て学生への対応を行ってもらうようにしている。それにより、その場で欠席等の学生の今後について話し合うことができるようになった。

また持参品で特に上靴、帽子、着替え、弁当等を忘れる学生が多い。これには、事前に案内を大学内に掲示するほか、さらに2週間前までに各学科毎に案内のプリントを配布するようにして学生に徹底を図っている。

さらに学生の身だしなみ（髪の色、服装、装飾品等）についても、学校で体験を行う場合には、ふさわしくない者が多く見られる。この点は、1年次オリエンテーションや事前の案内でも連絡する一方、各学科からも指導してほしいと考えている。等である。

附属養護学校における2日間の介護等体験ではあるが、今後もこの機会を学生にとっても、本校の児童生徒にとってもよりよい触れ合いの場とできるよう、教育学部としっかり連携を図りながら、より一層の充実を目指していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 全国特殊学校長会：盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック「フィリア」、THE EARTH 教育新社、平成10年3月
- 2) 国立久里浜養護学校：養護学校における介護等体験の実際
- 3) 富山大学教育学部附属養護学校：介護等体験ガイドブック、1999
- 4) 愛知教育大学教育実地研究委員会、介護等体験専門委員会：介護等体験実地報告書—附属養護学校での介護等体験（試行）の記録一、平成11年2月
- 5) 高知大学教育学部附属養護学校、高知大学教職教育委員会：介護等体験報告集—知的障害養護学校で何を体験し何を感じたか—、平成12年3月
- 6) 宇都宮大学教育学部附属養護学校：介護等体験実施報告書、平成12年3月